

ルーマニア月報

2025 年 9 月号

本月報はルーマニアの報道等をもとに、
日本大使館がとりまとめたものです。

令和 7 年 10 月 10 日
在ルーマニア日本国大使館作成

主要ニュース

【内政】

- 9 月 1 日、ボロジャン内閣が 5 法案（①年金・②医療・③国営企業改革・④規制当局整理・⑤財政税制）を責任引受で議会通過。9 月 24 日、④は合憲の判断、10 月 8 日、②③も合憲の判断。①⑤については 10 月 20 日まで判断を延期。
- 9 月 16 日、昨年の大統領選挙について、検事総長報告を発表。8.5 万件超のサイバー攻撃、ボット・AI 生成・偽サイト・広告網・TikTok の大型ネットワーク等で情報操作により、ジョルジエスク元大統領候補に有利に作用した旨指摘。
- 9 月 16 日、ジョルジエスク元大統領候補は、①憲法秩序転覆未遂ほう助、②虚偽情報流布の容疑でポトラ元傭兵を含む 21 名と共に起訴。同人は容疑を否定。

【経済】

- 9 月 11 日、国家統計局は、ルーマニアのインフレ率が 7 月の 7.84%から 9.9%に上昇した旨発表。
- 9 月 24 日、ボロジャン首相は、欧州委員会との合意に基づき、ルーマニアの 2025 年の財政赤字を GDP8.4%に設定し、2026 年には 6%を目指す旨発表。
- 9 月 25 日、欧州復興開発銀行は、2025 年のルーマニアの経済成長予測を 5 月予測時の 1.6%から 0.9%に下方修正。

【外交】

- 9 月 2 日、ナスターセ元首相（PSD）とダンチラ元首相(PSD)が北京での戦勝 80 周年記念式典に出席し、プーチン露大統領、金正恩総書記、習近平国家主席らと共に記念撮影。
- 9 月 18～29 日、ツォイウ外相は国連総会に参加するため米国を訪問。

【防衛・安全保障】

- 9 月 13 日、ロシアがルーマニアとの国境付近のウクライナ領に無人機攻撃。国境付近を哨戒していた空軍戦闘機がルーマニア領空内で無人機を探知しインターセプト。

【我が国との関係】

- 9 月上旬、トゥルカン下院議員は、日本を訪問し、玄葉衆議院副議長、福山参議院副議長、逢沢日・ルーマニア友好議員連盟会長等と会談。
- 9 月 4 日、国際交流基金巡回展「現代日本デザイン 100 選」がブカレストのアートサファリで開幕。
- 9 月 5 日、片江大使はプスラル欧州投資・事業相を表敬訪問。
- 9 月 9 日、片江大使はブゾイアヌ環境・水利・森林相を表敬訪問。
- 9 月 11 日、在ルーマニア日本国大使館は、グリゴレ・アンティパ国立自然史博物館と共催する写真展「Japan – tales of nature」のオープニングレセプションを開催。
- 9 月 16 日、片江大使はグリーンデアヌ下院議長と面会。

内政

● 第 2 次改革パッケージの進展

- 9 月 1 日、ボロジャン内閣は第 2 次改革パッケージの 5 法案（①裁判官・検察官の特別年金見直し法案（上限・勤続年数・退職年齢の改定）、②医療制度改革法案（保健医療の運営・財政の見直し）、③国営企業のコーポレート・ガバナンス改革法案、④規制当局の効率化・財政持続性に関する措置法案（ANCOM・ANRE・ASF のスリム化等）、⑤新たな税制・増税を含む財務省パッケージ法案）を「責任引受」で可決。
- 9 月 7 日、野党による不信任案 4 本は全て否決。9 月 24 日、憲法裁判所は④の規制当局整理法を合憲と判断し、10 月 8 日、②③も合憲の判断。①⑤については 10 月 20 日まで判断を延期。

● 抗議活動関連

- 9 月 2 日、ブカレスト市はニューライト協会と SOS ルーマニアが主催する反移民集会について危険性を理由に許可を取消。
- 9 月 8 日（新学期初日）、教育分野の緊縮・歳出削減に反対する教員数千人がブカレストの勝利広場（首相府）からコトロチエニ宮殿（大統領府）まで行進。ダン大統領は教員代表と面会し「修正可能な点は是正」と表明。
- 9 月 15 日、地方行政の人員削減計画の撤回・見直しを要求し、地方公務員がブカレストの議会宮殿前と勝利広場（首相府）でデモ。

● 検事総長による昨年大統領選挙に関する報告書の発出

- 9 月 16 日、フロレンツァ検事総長は、2024 年の無効化された大統領選挙に関する捜査について司法当局として初めて報告書を提出。その概要は以下の通り。
 - ✧ ロシアは 2019 年にルーマニアへのハイブリッド戦を開始。2022 年以降本格化。2024 年大統領選挙で干渉が頂点。
 - ✧ ジョルジエスク候補を利する大規模キャンペーンが展開。SNS・ボット・AI 生成コンテンツを駆使した情報操作が拡散。
 - ✧ 2024 年 11 月 21 日以降、130 万人超のメンバーを抱える 40 以上のグループによる反体制・親ロシア・社会分断的ナラティブが拡散。
 - ✧ TikTok での宣伝が急増。ロシア登録のメールで作成された 2 万超のボットアカウントが投票日前日に稼働。TikTok の調査により、ジョルジエスク候補を推進する 2 つの協調ネットワークを特定。
 - ✧ サイバー攻撃は 8 万 5000 件以上に上り、13 以上の機関が標的。親ロシア系ランサムウェア集団の関与が確認されたほか、ロシアから指示を受けたコロンビア国籍の人物による爆破計画も発覚。
 - ✧ ロシアと関係する広告企業（AdNow、MGID、Geozo、AdsKeeper）やブラウザ系メディアが利用され、偽サイトやクリックバイトを通じて悪質なコンテンツが拡散。
 - ✧ 経済・社会不安を煽るキャンペーン（買い物ボイコットや燃料買いだめの呼びかけ）も確認。
 - ✧ 政治的転覆工作にメディア企業ネットワークの育成、議員とロシア大使館との関係構築、国内過激派集団の利用。

● ジョルジエスク元大統領候補の起訴

- ジョルジエスク元大統領候補は 7 月のファシズム宣伝容疑での起訴に加えて、9 月 16 日、憲法秩序転覆未遂ほう助・虚偽情報流布で、ポトラ（Horatiu Potra）元傭兵を含む共犯 21 名と共に起訴。検察は 2024 年 12 月の暴力的転覆計画や対外勢力との連関を主張。
- ジョルジエスク元大統領候補本人は起訴を「演説であり捏造」「トランプ 2016 年のコピー」と否定。弁護人は「不当起

訴」と主張。AUR は「警察国家」と批判し支援姿勢を明確化。ロシア外務省は関与を全面否定。

- 起訴には至っていないが、ジョルジエスク元大統領候補は、追加の捜査 2 件（①公共扇動（2024 年 11 月 27 日～2025 年 2 月 10 日の発言） ②虚偽情報の伝達（海外インフルエンサー番組での発言）で捜査。後者は「表現の自由の範囲」を巡り論争。

● 世論調査の結果

- INSCOP（調査実施期間 9 月 1 日～9 月 9 日、対象者：公表なし、統計上の誤差：公表なし）
政党支持率 AUR 40.8%、PSD 17.9%、PNL 15.2%、USR 12.8%、UDMR 4.0%、POT 3.3%、SOS 2.8%
- Avangarde（調査実施期間 9 月 9 日～9 月 18 日、対象者：1,300 名、統計上の誤差：±2.3%）
政党支持率 AUR 41%、PSD 19%、PNL 13%、USR 12%、UDMR 6%
51%がルーマニア政府の運営にやや失望、23%がやや満足、23%は期待なし。
ルーマニア国民が今後懸念する主な課題は、経済危機の可能性（28%）、ウクライナ戦争の激化（26%）、子供の将来（19%）、健康問題（12%）、社会における憎悪（5%）である。

【政党略称】PSD：社会民主党、PNL：国民自由党、AUR：ルーマニア人統一同盟、UDMR：ハンガリー人民主同盟、USR：ルーマニア救国同盟、POT：青年党、PUSL：社会自由ヒューマニスト党、AFD:右派の力連合

経済

（1） 主要経済統計とりまとめ（国家統計局、財務省、ルーマニア中央銀行 発表とりまとめ）

● 国家統計局 （INS）

	2025/1	2025/2	2025/3	2025/4	2025/5	2025/6	2025/7
貿易収支（億€）	-27.386	-56.169	-84.536	-116.063	-143.184	-167.123	-193.115
消費者物価指数(%)	4.95	5.02	4.86	4.85	5.45	5.66	7.84
失業率（%）	5.5	5.6	5.5	5.7	5.8	5.8	5.8
平均グロス給与（€）	1,793	1,797	1,910	1,883	1,837	1,850	1,840
平均ネット給与（€）	1,072	1,076	1,145	1,129	1,101	1,107	1,103

● 財務省 （MF）

	2025/1	2025/2	2025/3	2025/4	2025/5	2025/6	2025/7
財政収支（億 lei）	110.118	302.372	436.372	559.710	642.310	697.952	764.380
GDP 比（%）	-0.58	-1.58	-2.28	-2.95	-3.39	-3.68	-4.04

● ルーマニア中央銀行（BNR）

	2025/1	2025/2	2025/3	2025/4	2025/5	2025/6	2025/7
政策金利（％）	6.50	6.50	6.50	6.50	6.50	6.50	6.50
外貨準備高（億€）	608.37	625.93	619.93	624.14	556.61	582.81	632.25
経常収支（億€）	-16.46	-48.09	-76.56	-101.03	-126.32	-138.97	-172.26
前年同期（億€）	-14.20	-26.00	-42.01	-62.89	-86.10	-116.82	-146.91
FDI（億€）	5.43	10.31	16.72	19.97	14.75	27.79	42.69
前年同期（億€）	11.48	16.60	24.81	22.73	20.87	24.14	32.44
前年同期比（％）	-52.70	-37.89	-32.60	-12.14	-29.32	+15.12	+31.59
中長期対外債務（億€）	1534.61	1585.05	1568.81	1589.68	1588.74	1620.89	1710.99
前年末比（％）	-0.6	+2.3	+1.2	+2.6	+2.5	+4.6	+10.4
短期対外債務（億€）	484.82	497.82	485.26	501.21	505.76	502.84	490.58
前年末比（％）	-1.3	-0.2	-2.7	+0.5	+1.4	+0.8	-1.7

● 消費者物価指数（国家統計局（INS）・ユーロスタット）

	2025/1	2025/2	2025/3	2025/4	2025/5	2025/6	2025/7
消費者物価指数（％）	4.95	5.02	4.86	4.85	5.45	5.66	7.84
食料品価格（％）	4.54	4.54	5.10	5.57	6.53	7.36	7.67
非食糧品価格（％）	4.60	4.79	3.84	3.53	4.00	3.90	8.18
サービス価格（％）	6.54	6.42	6.99	6.83	7.09	7.05	7.33
ユーロ圏平均	2.5	2.3	2.2	2.2	1.9	2.0	2.0
EU27 カ国平均	2.8	2.7	2.5	2.4	2.2	2.3	2.4

● 業種別（前年同期比）（国家統計局（INS）・ユーロスタット）

	2025/1	2025/2	2025/3	2025/4	2025/5	2025/6	2025/7
鉱工業							
工業生産高（％）	2.1	-3.2	-7.6	-2.4	3.7	-0.8	2.3
工業売上高（名目）（％）	-0.4	-1.9	3.6	-2.8	11.6	7.5	7.6
工業製品物価指数（％）	-0.1	4.0	3.3	1.8	0.9	-0.3	2.7
新規工業受注高（名目）（％）	-3.5	-0.2	8.9	0.1	13.5	9.2	12.6
小売業							
小売業売上高（除：自動車・バイク）（％）	3.2	3.3	3.4	3.1	2.7	2.5	4.5
自動車・バイク売上高（％）	1.4	0.1	1.6	-4.7	6.0	9.9	14.0
小売業売上高 ユーロ圏平均（％）	1.5	2.3	1.5	2.3	1.8	3.1	2.2
小売業売上高 EU 平均（％）	1.6	2.0	1.4	2.8	1.9	3.1	2.4
建設業							
工事（％）	34.1	6.7	3.1	-2.8	2.9	5.4	30.9

（2） 主要経済関連

● 8月のインフレ率、ほぼ 10%に上昇

- 9月11日、国家統計局は、ルーマニアのインフレ率が7月の7.84%から9.9%に上昇した旨を発表した。非食品、サービス、食品の価格が大幅に上昇。中央銀行は、インフレ率は9月にピークを迎え、年末でも9%を超える可能性があるかと予測。

- **IMF、ルーマニアの 2025 年成長予測を 1.0%へ下方修正**

- 9月12日、IMFはルーマニアの経済成長予測を従来の1.6%から1.0%に下方修正した。インフレと財政再建の影響で消費支出が減少。政府は2025-2026年に財政改革を実施し、インフレは2026年まで高止まりする見込み。

- **EBRD、ルーマニアの経済成長予測を 0.9%に下方修正**

- 9月25日、欧州復興開発銀行（EBRD）はルーマニアの経済成長予測を、5月予測時の1.6%から0.9%に下方修正する旨を発表した。2024年のGDP成長率は0.8%で、産業、サービス、建設が停滞し、農業は干ばつにより影響を受けた。さらに、政治的不安定と財政緊縮策が企業信頼感を低下させた。エネルギー市場の自由化と増税がインフレを押し上げ、年末のインフレ率は8.8%に達すると予測。2026年には成長率が1.6%に回復する見込みだが、輸出と公共投資の弱さがリスク要因とされる。

- **ボロジャン首相、今年の財政赤字を 8.4%に設定し、来年は 6%を目指す**

- 9月24日、ボロジャン首相は、欧州委員会との合意に基づき、ルーマニアの今年の財政赤字をGDP8.4%に設定し、来年には6%を目指すを発表した。財政パッケージが今年は0.6-0.7%の影響を与えるが、来年には2.5%を超えると予測。利息関連費用の増加が赤字の主な要因である。政府は支出削減と効率的な運営を通じて財政安定を図り、政治的安定を維持する意向。

(3) 自動車関連ニュース

- **フォード・オトサン、2ヶ月連続でダチアを生産台数で上回る**

- 9月16日、ルーマニアのフォード・オトサンは2ヶ月連続でダチアを生産台数で上回ったことが明らかとなった。7月には5万台以上が生産され、フォード・オトサンの過去最高の生産量を記録した。国内での自動車生産は前年比2.7%減少している。

- **Rabla Auto 2025 エコカー補助制度、9月30日から開始**

- 9月18日、環境基金は、Rabla Auto 2025 エコカー補助制度が9月30日から個人での利用が可能となる旨を発表した。総予算2億レイで、エコバウチャーにより電動車両などの購入が支援される。

(4) エネルギー関連ニュース

- **チェルナヴォダ原発 1号機改修プロジェクトの土木工事開始**

- 9月3日、チェルナヴォダ原発1号機の改修プロジェクトが開始された。国家原子力活動管理委員会（CNCAN）が放射性廃棄物処理施設の建設許可を発行したことが契機となった。ルーマニアの大統領や環境大臣などが参加し、各国の企業と協力して中低レベル放射性廃棄物の処理と貯蔵に取り組む。

- **石炭火力発電所の閉鎖はエネルギー価格を 30%以上上昇させる可能性**

- 9月4日、イヴァン・エネルギー相はオルテニアとジウ溪谷の石炭火力発電所の閉鎖がルーマニアのエネルギー面での脆弱性を増し、価格を最低30%上昇させる旨述べた。石炭発電所の運用を2030年まで延長するための法的手続きを開始する予定。

(5) インフラ関連ニュース

- **ルーマニアーウクライナ間の道路橋、80%完成**

- 9月3日、マラムレシュ県のシゲトゥ・マルマツィエイにあるルーマニアーウクライナ間の道路橋が80%完成した。橋はティサ川を跨ぎ、両国間の迅速な接続を可能にする。地域社会への特別な支援を提供し、経済や文化の交流、貿易や観光の促進が期待されている。

- **ブカレスト空港、新ターミナル設計に 9つの国際入札**

- 9月17日、ブカレスト空港は新ターミナル設計のために9つの国際入札を行った。2025年12月5日までに評価される予定で、総工費は約4,000万ユーロ。新ターミナルは年間3,000万人の乗客を収容可能と見込まれている。

(6) その他トピックス

- **ポロジャン首相、13,000 人の公務員解雇による年間最大 14 億レイの節約を期待**
 - 9 月 3 日、ポロジャン首相は、地方公務員 13,000 人の解雇により年間 12 億から 14 億レイの節約を見込んでいる旨述べた。地方行政の職員数を 10%削減するには、多くの市町村がスタッフの解雇を余儀なくされる。ルーマニアの小都市の少なくとも 3 分の 1 が市民からの収入で給与を賄えていないと指摘し、余剰人員を抱える市役所は人員削減が必要だと語った。
- **ルーマニア、EU で 2 番目に高い労働コストの増加を記録**
 - 9 月 16 日、ユーロスタット情報から、ルーマニアの労働コストが前年同期比 10.4%増加し、EU で 2 番目に高い増加率だったことが明らかとなった。建設業での増加率が 15%と最も高く、サービス業でも 10.6%の増加が見られた。
- **ナザレ財務大臣：グリーンエコノミーのためのサムライ債発行を計画**
 - 9 月 18 日、ナザレ財務相は、ルーマニアは約 108 億レイのグリーンボンドを発行し、今後サムライ債の発行を計画している旨イベントで発言した。
- **マリネスク中銀副総裁 ルーマニアのユーロ圏加盟に言及**
 - 9 月 19 日、ルーマニア中央銀行のマリネスク副総裁は、ユーロ圏への加盟が次の 10 年間でルーマニアの主要な国家プロジェクトになる可能性がある旨述べた。彼はキシナウで開催された国際会議で、ルーマニアがユーロ圏加盟という戦略目標に向けて積極的に努力している旨強調し、過去 20 年でルーマニアは EU 諸国の中で最も急速な経済成長を遂げており、今後もこの路線を維持する意向。
- **ルーマニア、IAEA 理事会に選出**
 - 9 月 19 日、ルーマニアが国際原子力機関（IAEA）の理事会に選出された。核分野での国際協力を強化し、平和利用の推進を目指す。

外政

- **欧州委員会委員長のルーマニア訪問：黒海の安全を守る役割を称賛**
 - 9 月 1 日、フォン・デア・ライエン欧州委員会委員長は、ルーマニアを訪れ、ダン大統領と会談を行い、NATO 東翼の安全確保に関するルーマニアの貢献を称賛した。会談では、主に EU と NATO の協力強化や海上およびハイブリッド脅威への対応が話し合われた。
- **北京での会合に元 PSD 首相が参加**
 - 9 月 2 日、ナスターセ元首相(PSD)とダンチラ元首相（PSD）が北京での戦勝 80 周年記念式典に出席し、プーチン大統領、金正恩総書記、習近平国家主席らと共に記念撮影に収まった。ナスターセ元首相は式典に招待されたため出席したとしている。
- **欧州理事会議長、ダン大統領と会談**
 - 9 月 3 日、コスタ欧州理事会議長がコトロチエニ宮殿でダン大統領と会談した。会談では、黒海戦略、ハイブリッド戦、EU 連帯、EU 拡大プロセスについて協議された。
- **ツォイウ外相が国連総会に参加**
 - 9 月 18～29 日、ツォイウ外相は国連総会に参加するため米国を訪問した。ウクライナ、ガザ、モルドバについて議論した他、政府要人との会談を行った。

- **与党議員が台湾との関係正常化を求める**

- 9月22日、連立与党の9人の議員が、台湾との関係正常化を求める公開書簡を大統領と首相に送った旨報道された。書簡では、台湾との投資保証条約の締結や代表事務所の設置が提案された。

- **ポロジャン首相のブリュッセル訪問**

- 9月22日、ポロジャン首相はブリュッセルを訪問し、ミンザトゥ欧州委員会執行副委員長等と会談した。会談では、EU 予算や SAFE イニシアチブ等について協議された。

- **モルドバ選挙 親欧州派与党 PAS 50.16% vs 愛国者ブロック 24.19%**

- 9月28日、モルドバの議会選挙が行われ、親欧州派の与党 PAS が 50.16%の票を獲得し、議席の過半数を形成する見込みとなった。愛国者ブロックは 24.19%。
- この結果を受け、9月29日、ダン大統領はモルドバ国民が欧州統合路線を選んだことを祝福し、ルーマニアは今後も支援を続けると述べた。

防衛・安全保障

(1) 事案・イベント等

- **ロシアによる無人機攻撃**

- 9月1日から2日にかけて、国防省のレーダー監視システムは、トゥルチャ県のドナウ川キリア支流地域の北部にあるウクライナの港湾インフラに対するロシアによる空爆を検知し、トゥルチャ北部に RO-ALERT（ルーマニア版 Jアラート）が発出された。ルーマニア空軍の F-16 戦闘機 2 機、ドイツ空軍のユーロファイター戦闘機 2 機がそれぞれ調査任務のため離陸した。ルーマニア国内空域での航空機の侵入は検知されなかった。
- 9月4日夜、ルーマニア国防省のレーダー監視システムは、スリーナ北東約 70km 弱の地点で、無人機群を探知、ドイツ空軍のユーロファイター戦闘機 2 機が離陸したが、無人機群は進路を北に変え、その後レーダー信号は消えた。
- 9月9日から10日にかけて、国防省のレーダー監視システムは、ルーマニアとの国境にあるウクライナの町ヴァルコフ周辺で無人機群を探知し、トゥルチャ北部に RO-ALERT が発出された。ルーマニアの F-16 戦闘機 2 機が調査任務のため離陸したが、ルーマニア国内空域での航空機の侵入は検知されなかった。
- 9月11日、ルーマニア外務省は、9月9日夜から10日にかけて発生したロシアの無人偵察機によるポーランド領空侵犯を受けて、駐ルーマニア・ロシア大使を外務省に召喚し、ルーマニアの断固たる非難を伝えた。
- 9月13日夕刻、ロシアがルーマニアとの国境付近のウクライナ領に無人機攻撃。国境付近を哨戒していた空軍戦闘機がルーマニア領空内で無人機を探知しインターセプト（迎撃）。南西約 20km まで追跡、無人機は約 50 分間にわたり周回しウクライナ方面に向かった。パイロットは撃墜の許可を得ていたものの、現場の判断により、無人機に対する発砲はしていない。無人機は居住地の上空を飛行しておらず、住民の安全に対する差し迫った危険はなかった。ドイツ空軍の戦闘機 2 機もルーマニア内基地から離陸し周辺を監視した。

- **イスラエルからの医療搬送任務**

- 9月17日、ルーマニア空軍の C-130 輸送機が、パレスチナ籍の小児患者 10 人と親族 28 人の医療搬送任務（イスラエルからルーマニア）を遂行した。

- **欧州委員会（EU）委員長のルーマニア訪問**

- 9月1日、コンスタンツァにて、モシュテアヌ国防相とヴラッド参謀総長はルーマニアを訪問中のウルスラ・フォン・デア・ライエン欧州委員会（EU）委員長と会談するとともに、地域の安全保障の戦略ハブである第57空軍基地（ミハイル・コガルニチェアヌ）とコンスタンツァ軍港訪問に同行した。
- 協議では、EU政策の軍事的側面、欧州軍需産業の発展、抑止力と防衛態勢の強化に焦点が当てられた。ウクライナの復興努力を支援する主要な物流拠点としてのルーマニアの戦略的役割の重要性が再確認された。
- 議論の中心となったのは、ルーマニアに大きな戦略的機会を提供する欧州のSAFE（Security Action for Europe：欧州安全保障行動）で、国防相はこの制度を利用して防衛産業能力を強化し、軍隊の近代化を加速させるというルーマニアの意向を強調した。

- **ルーマニア、南東欧国防大臣会合プロセス（SEDM）議長の任務を正式に終える**

- 9月3日、北マケドニア共和国で南東欧国防大臣会合プロセス（SEDM）の輪番議長国の公式引継式が行われ、ルーマニアは2023年から2025年にかけて、3回目となる議長国の任務を正式に終了し、ギリシャに引き継いだ。
- SEDMは、欧州大西洋統合を目指す南東欧諸国が協力するためのプラットフォームとして1996年に創設されたもので、地域の信頼と協力を促進しながら現実の安全保障上の課題に取り組む重要な地域イニシアチブへと発展。

- **元モルドバ国家安保局副局長 ルーマニアへのスパイ容疑で逮捕**

- 9月8日、元モルドバ国家安全保障局の副長官が、ベラルーシのKGBにルーマニアの国家機密情報を継続的に提供したとして、ルーマニアの組織犯罪テロ捜査検察総局（DIICOT）によって逮捕された。国家反逆罪でDIICOTの捜査を受けている。

(2) 訓練・演習等

- **動員訓練 MOBEX SB-MS-25 の実施**

- 9月15日から19日にかけて、シビウ県とムレシュ県において、国防省が主催・主導し、国家予備・特別管理局、内務省、ルーマニア情報庁、特別通信局、国家刑務所管理局の協力を得て、国民・経済・領土の防衛準備状況を確認するための動員訓練 MOBEX SB-MS-25 が実施された。このような訓練は定期的に実施され、人員や技術を備えた軍部隊の完成度を確認するとともに、予備役と現役軍人の結束を強化することを目的としている。

- **省庁間演習 CONCORDIA 25 の実施**

- 9月8日から12日にかけて、ルーマニア国防省は内務省や情報庁など複数の機関と協力し、省庁間演習「CONCORDIA 25」を実施した。演習は、危機的状況への対応能力と国家の強靱性を強化することを目的とし、国内の複数地域において、CBRN（化学・生物・放射性物質・核）事案やサイバー脅威への対処、海上での機雷除去を含む共同行動手順の検証と改善が行われた。

(3) 主要な会談・会合等

- **国防相、ルクセンブルグ国防相を訪問、会談**

- 9月24日、モシュテアヌ国防相はルクセンブルクを公式訪問し、国防相と会談、防衛協力に関する趣意書に署名した。両国は新たな二国間協定の締結に向けた協議を継続することで合意し、防衛産業分野での協力やウクライナ支援の重要性についても確認した。

- **参謀総長、NATO 軍事委員会に出席**

- 9月26日から27日にかけて、ラトビアのリガで開催された NATO 軍事委員会（国防参謀長級会合）に、ヴラッド参謀総長が出席、会合でハーグ・サミットの決定事項の履行や同盟の抑止・防衛態勢の強化が議論された。
- また、参謀総長はスペインおよび米国のカウンターパートと個別会談を行い、NATO 東方側面における領空侵犯事案に対応する新たな NATO の作戦である「Eastern Sentry」の重要性や、国内法整備、新技術導入による迅速な能力適応の必要性について協議した。

- **国防相、ワルシャワ安保フォーラムに出席、多数の会談を実施**

- 9月29日から30日にかけて、モシテアヌ国防相はワルシャワ安全保障フォーラムに参加し、NATO 各国へのロシアによる無人機や航空機の侵入を背景とした NATO の取り組み「Eastern Sentry」や「Eastern Flank Watch」の重要性を強調するとともに、ルーマニアを領空侵犯する無人・有人機の対応に関する法的・手続的見直しについても説明を実施した。
- 同相はこの機会を捉えて、NATO 議員連盟議長、ポーランド国防相、モンテネグロ副首相、米ウクライナ特使、エアバス社、MBDA 社、レイセオン社、シールド AI 社など国際的な防衛産業企業の代表者等とも会談した。

(4) 部隊・人員・装備品・防衛産業など

- **SAFE プログラム、ルーマニアは EU 内で 2 番目の分配額**

- 9月9日、欧州委員会（EU）が発表した欧州安全保障行動（SAFE）メカニズムのうち、ルーマニアは166億8000万ユーロの資金の恩恵を受ける。これは欧州連合（EU）レベルで2番目に大きな配分となり、ルーマニアの衛能力を高める戦略的な機会となる。

我が国との関係

(1) 二国間関係全般

- **トゥルカン下院議員の訪日**

- 9月上旬、トゥルカン下院議員は、日本を訪問し、玄葉衆議院副議長、福山参議院副議長、逢沢日・ルーマニア友好議員連盟会長等と会談し、両国の強力なパートナーシップを再確認した。



(写真：トゥルカン議員 Facebook より)

- **片江大使によるプスラル欧州投資・事業相表敬**

- 9月5日、片江大使はプスラル欧州投資・事業相を表敬訪問した。会談にはJETRO ルーマニア事務所の高崎所長も同席し、幅広い分野における日本企業によるルーマニアへの投資の現状と更なる促進に向けた意見交換が行われた。



- **片江大使によるブゾイアヌ環境・水利・森林相表敬**

- 9月9日、片江大使はブゾイアヌ環境・水利・森林相を表敬訪問した。会談では、開催中の大阪・関西万博でも取り上げられている持続可能な循環経済（サーキュラーエコノミー）の推進等につき意見交換が行われ、特に廃棄物処理等の分野で今後二国間の具体的な協力プロジェクト等を形成していく可能性について活発なやりとりがなされた。



- **片江大使によるグリンデアヌ下院議長表敬**

- 9月16日、片江大使はグリンデアヌ下院議長と面会した。この面会にはネグレスク欧州議会副議長も同席し、日ルーマニア戦略的パートナーシップの重要な柱である議会交流の意義を確認しました。会談では、地下鉄 M6 やブライラ橋といったインフラ案件についても意見交換が行われた。また、片江大使より、大阪・関西万博のルーマニア館の来場者数が 50 万人を突破したことに祝意を伝えた。



(2) 広報・文化関係、大使館主催事業等

- **巡回展「現代日本デザイン 100 選」の開幕**

- 9月4日、国際交流基金巡回展「現代日本デザイン 100 選」がブカレストのアートサファリで開幕した。
- 4 件の展覧会と共に祝われたオープニング・セレモニーでは、片江大使が、人々の生活スタイルや嗜好を反映する日用品からシステムやサービスのデザインを含むプロダクトデザインまでを展示するこの展示のユニークさを説明し、日本のデザインの背景にある文化への理解が深まることを期待すると述べた。
- 同展覧会は 10 月 12 日に閉幕。



- **日本の自然写真展「Japan – tales of nature」の開催**

- 9月11日、在ルーマニア日本国大使館は、グリゴレ・アンティパ国立自然史博物館と共催する写真展「Japan – tales of nature」のオープニングレセプションを開催した。
- レセプションでは、片江大使及びポパ自然史博物館館長からの挨拶と、バチウナ文化次官からの祝辞の後、来場者が日本の国立公園の写真鑑賞を楽しんだ。
- 同写真展は 12 月 7 日まで開催。

